



冬

～乾燥や寒さと戦う冬の肌に

化粧品は強い味方～



木々の葉も紅葉し、落葉となり北風に舞い、季節はとうとう冬になりました。外気も室内も一年で最も乾燥するこの季節は私たちの肌や髪もみずみずしさを失いやすく、うるおいを守る保湿のお手入れがとても大切になります。冬こそ化粧品のパワーを有効に活用すべきとき。肌の乾燥対策には、コクのあるしっとりタイプの化粧水、乳液、美容液、クリームなどで十分に保湿のスキンケアをしましょう。

低下しがちな肌の新陳代謝を高め、健やかなハリと弾力を保つためマッサージやパックがおすすめです。乾燥による髪のパサつきが気になったらヘアトリートメントをしっかりしましょう。

慌ただしさも増す年末年始。バスタイムやお休み前のひとときにゆったりとした気分でもディケアもおすすめです。

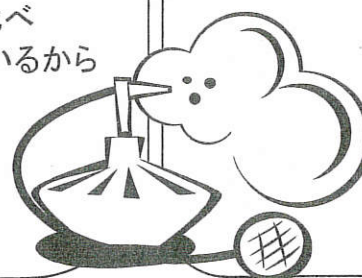
水仕事＝手アレ

女性の約40%が手アレに悩んでいます。主婦層の人が多く、次に調理師や理・美容師です。手アレは水仕事や強い洗剤の使用が主な原因です。利き手の親指や人差し指、中指など指腹の上半分に発生しやすく、これが進むと角質が剥がれ皮膚が薄くなって湿疹様に変化します。手アレは皮膚の水分量が減少し、かつ水分保持能力が低下し、さらに水や洗剤により皮膚の保湿成分が奪われて乾燥を起こします。これは顔などのいわゆる乾燥肌のように皮膚の水分蒸発量が多いためでなく、手の指腹や手掌発汗機能が低下し汗腺から出る汗の水分が少ないために起こるものです。

“こまめなケアで手アレ防止を心掛けましょう” 水仕事の後はもちろん、ふだんもクリームなどを頻りに塗り、手アレを防ぐことが大切です。手がアレてしまった場合は水仕事の際にゴム手袋をして洗剤や水にできるだけぬれないようにしましょう。

香り

アメリカやヨーロッパの諸国に比較して日本人は「香り」を使いこなす、楽しむ習慣が生活の中に密着しているとは言えません。日本人には香りに対する嫌悪感、そのようなものがあると思われます。日本人を含む黄色人種は比較的体臭の少ない、匂いの薄い人種です。最も体臭が濃いのが黒色人種、その次に濃いのが白色人種です。体臭の違いは人間の体にある二つの腺に関係しています。一つはエクリン腺といって汗、塩類などの他無機物中心に排出します。もう一つはアポクリン腺といって、匂いの元となる有機物を中心に排出します。黄色人種はアポクリン腺が少なく機能も弱いために体臭が薄いのです。体臭の濃さ薄さによって香りに期待する効果や働きも異なってきます。欧米の人たちが体臭を緩和するためだけでなく体臭と香水が混じり合った自分だけの香りを楽しんでいるのに比べ日本人はさほど互いの体臭を感じることもなく無臭が清潔感の現れであると感じているからそれ程香りになじみがないと思われます。とは言え香りはトータルな美の一つです。香水やオーデコロンはどうもと言う方も香りのあるクリーム、乳液や化粧水などでさりげない香りを身につけ香りの美しさを楽しんではいかがでしょうか。



無香料だから100%安全か

化粧品の安全性は全ての配合成分について厳密にチェックされていますので香料の有無だけで単純に「無香料なら安全」とは言えません。

香料の安全性は国際レベルで守られています。世界的研究機関RIFM(リフム)が設立され最新の科学技術を駆使して香料の中で危険性のある微量成分を突き止め、それを排除する方法が徹底的に研究されました。この研究成果をもとに安全基準を実施するための国際機関IFRA(イフラ)があり香料の安全性基準が実施されています。現在化粧品に配合されている香料はこのような厳しい検査を通過し食品と同じレベルの安全性基準をクリアしていますから安心してお使いいただけます。

むしろ現在では香りの効用について研究がすすみ、香りの心理的、生理的、ストレス緩和効果などの研究から、香りが身体の自律神経系、内分泌系、免疫系などに良い影響をもたらすことが明らかになってきました。

気に入った香りで心地よい気持ちになると心も身体も元気になるということです。良い香りは心や身体によい結論です。